

「人間教育実践報告」にみる創価の人間教育

—『人生地理学』『八つの精神的交渉』を中心として—

創価大学 耿蘭

1. はじめに

本論は『世界が求める創価の人間教育』（2020）収録の16例の人間教育実践報告、同報告第41回（2020）の3例¹、第42回（2021）の3例（「聖教新聞」2021年12月4日）、第43回（2022）の4例²と第44回（2023）の3例³、および2024年3月30日「聖教新聞」に載せられていた実践記録3例、合計32例を研究対象にしている。

上記32例の実践報告の中で、①生徒への愛の強さ、②生徒を信じ抜き信頼関係を構築していること、③忍耐強く生徒を支え努力し続けていること、④生徒の委細な言動にも称賛を示し自信を持たせていること、⑤創価教育学の継承者・池田大作の名言が、教員への励ましや啓発的存在となっていることが印象深い。そこで、実践報告の教員たちがみな、問題ある生徒を好転させることができた理由を明らかにしたいと思い、創価の人間教育について研究することにした。

創価教育学における価値論を分析したうえで、『人生地理学』に展開された価値創造現象特にその中の「八つの精神的交渉」が32例の実践報告においてどのように反映しているのかを対照させ、創価の人間教育の特質を考察する。

2. 創価教育学における価値論と『人生地理学』に展開された価値現象研究

本章は創価教育学における価値論と『人生地理学』に展開された価値現象研究について述べる。価値論については熊谷氏と古川氏の論述を借りて紹介する。創価即ち価値創造に関して、創価教育学の創始者・牧口常三郎は『創価教育学体系』（1930）にて独自の価値論を展開したが、『人生地理学』（1903）、特にその中の「八つの精神的交渉」にて既に価値現象を具体的に展開しているので、「八つの精神的交渉」に展開された価値現象研究について分析を試みる。

2.1 創価教育学における価値論

価値論について熊谷は下記のようにまとめている。「牧口によれば、事物について人生に対する関係性を発見して評価を行い、人為的に手を加えて関係性を強め、有益性を増進することである。対象に働きかけて人間生活との関係性を拡大、強化し有益性を増加させるところに価値の創造があるというのである」⁴。「価値を関係概念とすることによって評価主体の活動を創造的なものとして積極的に意義付け、その創造的活動を人生の幸福と結びつける」⁵。そこに牧口の価値概念の特色があると熊谷は捉えている。

それから、牧口価値論の基本的範疇は「『利』『善』『美』から構成されることになる」⁶と述べた。「利」「善」「美」について「①利的価値＝全人的生命に関する個体的価値。②善的価値＝団体的生命に関する社会的価値。③美的価値＝部分的生命に関する感覚的価値。」⁷と紹介している。

また、「人生への有用性という観点から構成された価値概念は、利的価値を基底として創造活動、幸福とダイナミックに結合しており、強い実践的意思を内在させている」⁸と述べ、価値創造は幸福と結びついていると論じた。

価値論については古川も論じたことがある。古川によると、牧口は「ありのままの姿や形を表したものが、真または真理であり、評価する主体（人間）と評価される対照（事物や環境）との関係性を表したものが価値である」

¹ <https://blog.goo.ne.jp/sps937/e/0cbe0edddff0bec691c62e8240c5843d>（閲覧日：2024年7月15日）

² <https://ameblo.jp/yassan-m28/entry-12771740199.html>（閲覧日：2024年7月15日）

³ <https://ameblo.jp/yassan-m28/entry-12857822798.html>（閲覧日：2024年7月15日）

⁴ 熊谷一乗『牧口常三郎』第三文明社 1997年1月 p196

⁵ 熊谷一乗『牧口常三郎』前掲 p192

⁶ 熊谷一乗『牧口常三郎』前掲 p195

⁷ 熊谷一乗『牧口常三郎』前掲 p195

⁸ 熊谷一乗『牧口常三郎』前掲 p193

⁹と指摘している。また、牧口価値論の最大の特徴は「幸福を追及していくために、日常生活の現実的な場面をまっすぐ見つめる『利』の要素、つまり、経済的・合理的・能率的な価値を導き入れたことにある」¹⁰と述べている。しかし、「『利』の価値を重視しながらも、最終的には、『善』の価値、言い換えれば、社会に対していかに貢献するかがもっとも重要な要素である、と位置づけている。牧口常三郎は、自他ともに幸福な生活が教育の真の目的であると言っている。」¹¹牧口にとって、幸福をつかむ道は美・利・善の追及にあるということになる。

2.2『人生地理学』の「八つの精神的交渉」に展開された価値現象研究

「八つの精神的交渉」とは『人生地理学』「緒論」「三 いかに周囲を観察すべきか」で展開されている内容で、①知覚的交渉、②利用的交渉、③科学的交渉、④審美的交渉、⑤道徳的交渉、⑥同情的交渉、⑦公共的交渉、⑧宗教的交渉のことである。牧口は『創価教育学体系Ⅱ』「序」において「なお不思議なのは、拙著『人生地理学』との関係である。『人生地理学』は地人関係の現象を研究対象となし、その間における因果の法則を見出そうとしたもので、まったく価値現象を研究していたのである」¹²と述べている。

①「知覚的交渉」では、下記のような過程が紹介されている。我々の心界が従来のもものとまったく一変し、新鮮で多様な外界現象に驚愕したものであって、心意はこれら新奇な現象に挑発されて、知らず知らず、この現象に注目し、これを観察し、これを経験し、その結果心中に一段の新知識を加えるのである。すなわち従来昏睡状態にあった心意が、それらのために覚醒し傾注し、ここに智的交渉を遂げたものである。このようにして我々の心意は、これによって停滞せずに、さらに他の心状に移ると同時に、心界の欠乏を満足させる愉快を喚起し、なおこの愉快を継続させようとするのが常である。

②「利用的交渉」では、下記の内容がある。人間は自然のこうした警醒に啓発されて、自己の経験と、祖先伝来とによって得られる標準によってこれを判断し、利者を好み害者を恐れ、利者を愛し害者を憎み、ついに前者に就いて後者を避けて、前者を使用し後者を放棄して、前者を増大させて後者を滅亡させようとする動作に及ぶ。我々が生命を維持するところの実際上の動作とは、すなわち直接の利害的交渉なのである。また、利用的交渉の背景には「功利主義」すなわち功利を第一とする考え方、幸福を人生や社会の最大目的とする倫理・政治学説がある¹³。

③「科学的交渉」では、下記の内容がある。発達した人間は多種複雑な事物相互の間に、神秘幽玄なる関係があることに驚愕し、進んでその因果的関係の理を探求し、考察せざるを得ないことに至る。これは実に、外界現象相互の間に存在する幽妙不可思議な関係が我々の心意を驚起させ、我々の心意はこれによって啓発されて、これを推究し、考察し、異同を分別し、差異を比較し、そしてこれら同種類の全体を包括する概念を構成し、全般の事実に通じる相関の理を発見し、これによって推究的交渉を遂げるのである。

④「審美的交渉」および⑤「道徳的交渉」では、下記の内容がある。複雑で多趣な外界現象に刺激させられ、興奮させられ、認識させられた我々は、性来の天真爛漫な性情に照らし合わせ、善悪及び美醜の標準によって判断し、そしてこれに感動するのである。これによって我々の心情は純潔となり清浄となる。そのようにして感動を覚えた我々の心情は、詩を詠み歌を唱い、画を描き石片に刻み、また道徳的に賞賛し、これを愛でたり、これを尊敬し、そして美的および道徳的交渉をなすのである。我々が人間界の善を賛美するのは、自然界における天然の美、もしくは技術の美を賛美するのと同じの心の作用に属するのである。ただ道徳的な美（＝善）の場合においては、その理想は美術におけるように画布や石片によって表されず、行動や行為によって表される点が異なるのである。

⑥「同情的交渉」については、下記の内容が述べられている。我々が日常、父母、兄弟、友人や隣人と交わるにあたって、これら諸人の顔色言動によって表される苦楽悲嘆は、直接に我々の心情を動かし、我々に憐みの心を惹起させる様子は、まさにこの種の交渉の最も著しいもので、この心情は同情と名付けられるものである。また、同

⁹ 古川敦『幸福に生きるために——牧口常三郎の目指したもの』第三文明社 2006年8月 p30

¹⁰ 古川敦『幸福に生きるために——牧口常三郎の目指したもの』前掲 p32

¹¹ 古川敦『幸福に生きるために——牧口常三郎の目指したもの』前掲 p32

¹² 牧口常三郎『創価教育学体系Ⅱ』聖教新聞社1996年6月 p6

¹³ これは1998年4月出版した『牧口常三郎全集 第一巻 人生地理学（上）』の399ページにある斎藤正二の補注から窺える。

情的交渉とは、我々の接触する個人もしくは物体を、我々と一致するものとして、もしくは同類のものとして共に苦楽を分かち合い、自身をその物体がおかれた境遇に置き換える如くするのである。

⑦「公共的交渉」において、我々はその社会に所属し、その恩恵に浴し、その社会が受ける運命を共に享受しつつ生活するものであることを知り、したがって我々の生活は、我々個人のみだけでなし得るものではなく、ともに社会を形成する全体の員数が暗々の内に、至大の幫助をなしつつあることを感ずるのである。これにおいて、最初各個体にのみ発動していた同情は大いに拡大されて、社会全体に向けられることに至る。いわゆる公共心なるものは、その結果として、公益の精神、愛郷の念、愛国心、人道等のいわゆる公德の基礎を形成するものとなる。

⑧「宗教的交渉」においては、下記の内容が述べられている。我々は以上の経験および交際によって、自然界の事物やその現象の多種複雑な間に、全体に調和と均整をもたらし、全く正確なる法則がその間に存在することを観察し、また人類の歴史を探りその運命を究めるうちに、無常変化極まりない状態の間に整然たる秩序が存在することを発見する。そしてこれらは到底人智の及ぶべきものではないと感じることによって、我々はあたかも他の一切の万物と共に、ある高等なる力(=存在)によって統制されているのである、といったような感情を起こす。こうした理会の及ばないものや、その運命に対しては、我々の存在は非常に微弱であると感じ、知らず知らずの内に畏怖と敬虔といった感情が胸中に溢れ集まってくるのである。このような交渉によって、我々の宗教心は喚起されるのである。

以上の「八つの精神的交渉」は、牧口が回顧するように“対象に働きかけて人間生活との関係性を拡大、強化し有益性を増加”させている。牧口は最終的には「利・善・美」の価値創造を核とした価値論を完成させているが、「八つの精神的交渉」は「利・善・美」の価値および価値創造を深化させていく上で、興味深くまた具体的な内容を提供している。そして、同交渉の中の利用的交渉は知覚的交渉、科学的交渉を含みながら「利的価値」に繋がり、審美的交渉は「美的価値」に繋がり、公共的交渉は同情的交渉、宗教的交渉を根底とし道徳的交渉を含みながら「善的価値」に繋がっていくように思える。なお同情的交渉における“憐みの心”、公共的交渉における“公共心”、宗教的交渉における“宗教心”に基づいた有益性の増大は、「内在的力」の価値の創造という観点から考えると極めて興味深い。

3. 人間教育実践例にみる「八つの精神的交渉」の価値創造現象

本章では、上記 32 例の実践報告にみる「八つの精神的交渉」の価値創造現象を分析する。

①「知覚的交渉」

この過程は実践教育の現場でも起こりうるものである。教員たちは教育現場で問題がある生徒に気づいた時には、同じく驚愕、注目、観察、経験、対策を図る、すなわち一段の新知識を加える段階が存在する。これらの一連の活動を通して、実際に無限の価値を創造したのである。まず教員はこの生徒の問題を解決する対策を考え出したことによって一段の新知識を加え、これは価値の創造であると言える。

②「利用的交渉」

牧口は生命を維持するところに利用的交渉の中の利害的交渉があると述べるが、現在の平和な時代には生活を快く維持するという表現にしたほうがよりふさわしいと考える。今日中国では生徒の人数が多くて、問題のある生徒を放棄する場合はしばしば見られる。実践報告でも生徒を放棄している親の事例が見られた。しかし、実践報告の中の教員はみんな放棄せず、積極的に対策を図って、何年間もかかって対応した教員さえいる。この対応の過程は決して容易ではなく、自身の生活を快く維持することに対して悪影響を与えたに違いない。それでも教員たちが諦めなかった理由は、その問題を抱えている生徒でも価値創造の能力を備えていると強く信じているからであると考ええる。

牧口はこの八つの精神的交渉を構想した時、価値論のつもりで書いていなかったが、実はここにすでに価値論の萌芽が見られた。また、実践報告の教員たちは問題のある生徒を全体的に「害者」として見ていなく、生徒の抱えている問題、悪い言動と価値観などは害で、それを変えれば「害」は「利」へと転換でき、これによって生徒たちは価値創造の能力が発揮できるようになると考えている。これは教育面に於ける「利用的交渉」になると考える。

この過程で、教員たちは問題のある生徒にどのように対応するか対策を図る時に、専門的書籍を参考にしたり、先輩たちに尋ねたりなどを通して、生徒と対応する力が培われ、また将来の経験になり、教員側は価値を創造している。また、生徒側も自分の問題をよい方向に変えることによって、より良い人間を目指すようになり、将来に向けて新たな価値を創造する可能性が高くなっている。

③「科学的交渉」

教員の主な仕事は生徒に知識を教えることで、その過程で、生徒が難しい知識を理解ができない場合、教員はその知識に関する複雑な関係を生徒に理解できるように説明したり、或いは実験などを通して生徒が自分から発見できるようさせるなど工夫するに違いない。これは教員と一般の生徒の間で随時に行われることで、科学的交渉でもある。ただ、実践報告の殆どの生徒の抱えている問題は勉強ができないわけではなく、登校すら問題になっている生徒で、科学的交渉と関係する事例はそれほど多くない。ただ、それらの生徒を通常通りの学校生活ができるように、教員たちは種々の努力を試みている。生徒の得意なことを切っ掛けにする事例も少なくない。その得意なことを教員と生徒が一緒に取り扱う中、上記の科学的交渉が出てくる可能性が十分ありうる。また、勉強が苦手で、放課後いつも職員室で勉強している生徒の事例が一つあり、その生徒は最終的に無事合格を勝ち取った。その日々の努力の過程の中でも、必ず上記の科学的交渉が何度も行われたと考える。

④「審美的交渉」および⑤「道徳的交渉」

実践報告において美術と関連している事例がある。例えば、①不登校の中学生が最初に描いた絵は拳銃を持っていたり、血を流していたり、腕を折った人など、ぞっとするような絵で、指導教員の長期間の関わりによって、最後は、先生たちに渡したお礼のカードに先生たちの似顔絵が非常にかわいく描かれていたこと、②保護者と連絡ノートのやり取りで、保護者が自身の園児が褒められたときの返事や表情を表現する際に、かわいいイラストを交えていたこと、③小学校二年生の子供が絵の構成や空の色、雲や樹木の描き方などを自分なりに考えて絵に取り入れるようになって、乱暴な行動をしていた同児童の紫陽花の優しく澄んだ色使いに先生とクラスメートから褒められただけでなく、佳作を受賞したことによって暴力がなくなっていたことなどがある。これらの事例の中で、共通しているところは絵を通して教員と生徒、また教員と保護者の間で交流が見られ、これはまさに審美的交渉である。また絵は生徒の抱えていた問題を解決する切っ掛けになり、最終的に生徒の言動が好転し、これはまた、他人の善の行動を見て、自分も感動して同じような行動をしようという道徳的交渉と繋がっている。

実践報告の中で、教員たちが問題のある生徒に対する種々の行動、対策を図ること、実際に実施して失敗したこと、それでも諦めずにまた対策を変えて実施してみること、少し効果があったら継続して積極的に対応すること、それらの行動の積み重ねで最終的には生徒を好転させたことなど、これらすべての行動は皆善行で、生徒は教員のこの一連の自分の問題を解決したいという善的行動に感動し、それで少しずつ積極的に教員と接してよい方向に向かって前進できるようになった。また、実践報告には書いていなかったが、一人の問題のある生徒を長く関わった末に、ほかの生徒たちもそれを見て、感動して自分もより良い方向に向かって頑張ろうという変化の可能性が十分ありうる。また、その生徒を好転させた結果は必ず教員同士の間にも広がり、周りの同僚たち、実践報告大会に参加した人々、さらに報告内容を読んだ人々までもその堅持に感動し、自分も今後同じような行動を取ろう（ここでは価値の創造が見られる）と考えたと思われる。これらすべてが道徳的な交渉に該当する。

⑥「同情的交渉」

本交渉は実践報告にも反映されている。暴言を出したり乱暴をしたりしている生徒の様子を見て、普通の人間だとそのような人が嫌いになって、敬遠するだろうが、教員たちの心ではまずその生徒の心は苦しんでいると意識し、同情する。そして生徒を上からの目線ではなく、教員自身と一致する同類として、苦楽を分かち合い、生徒の境遇に置き換える実践をして、それで少しずつ生徒の心を開いていけるようになったと思われる。

⑦「公共的交渉」

本交渉と実践報告とを対照してみると、まず教員と生徒は実際に互いに恩恵を被っているのである。教員が生徒に知識を教えるので、生徒は教員から恩恵を被っているのは容易に理解できるが、教員は生徒に恩恵を被っているのはどういうことだろうか。それは生徒がいないと、教員も存在しない。生徒がいるから教員が存在できるので、

両方は運命を共にしながら互いに恩恵を被っている。

次に、公共心の面について検討する。最初は一人の教員が一人の問題のある生徒を好転させて、これは個人のみに対する同情に過ぎない。ただ、一人の教員は一学期には一人の問題のある生徒ではなく、数人の生徒を同じ時間帯に対応しているのは通常である。したがって、筆者は教員が一人の生徒だけに止まらないで、その教員が教えているすべての生徒に対して同じ対応を取り、そのうちにその教員の心に公共心が生じてくるに違いないと考える。また、もっと視野を広げると、創価の人間教育を実践する数多くの教員がいる。これらの教員が対応している問題のある生徒はその倍数となり、これはもう個人に対してではなく、社会全体に向けられることになり、公共的交渉になると考える。

⑧「宗教的交渉」

実践報告の中で、宗教心に関連すると考えられる言葉として「祈り」や「信じる」という言葉を取り上げることができる。池田は下記のように「祈り」と「信じること」について言及したことがある。「人間だけに『祈り』がある。祈りから宗教が生まれた。」¹⁴「祈りは向上への『心』の表れ」¹⁵である。「『鏡に向って礼拝を成す時浮かべる影又我を礼拝するなり（鏡に向って礼拝する時、鏡に映った姿もまた自分を礼拝する）』（仏典）とある。相手の生命の『仏性（最高の善性・執筆注）』を信じて、心から尊敬し、大切にしていく。そのときに、相手の仏性も、根底的には、こちらを礼拝し返している。」¹⁶

「①たえず自己を省みながら、相手の善性を信じ、呼びかける、このような『対話』を通して、まず自己を統御し、規律する力を練磨する、②そしてそれを通して他者の善性を引き出していくというものである。そしてその『対話』を支える両輪は“人間誰しにも備わる『善性への信頼』と、それを粘り強く引き出そうとする『忍耐の精神』である”¹⁷と述べる。自己を統御し規律する力が練磨され、その上、他者の善性も引き出されるというのは、即ち双方が善性を顕現させている状況で、ここに新たな価値の創造を見出すことができる。

実践報告の中で「祈り」の言葉はそれほど頻繁に使用されていなかったが、生徒を「信じる」、「信じぬく」、「信頼感」などの言葉が頻出している。この過程において教員は生徒の善性や可能性を一貫して信じ、呼びかける同時に、教員自身の「忍耐の精神」、すなわち自己を統御し規律する力も練磨されており、この点は実践報告を読んで深く実感できる内容で、まさに教員と生徒双方を上達させ、更に新たな価値の創造が見られる。

以上、実践報告に見られる各交渉について分析を行った。なお、牧口によると、我々と周囲との交渉は、各位の対象によってそれぞれ多面的になされるのみならず、一個人に対しても、時を異にするに従い、あるいは境遇を異にするに従い、あるいはほとんど同時に、以上の数方面もしくは全方面の交渉をなすことがある。少し多方面に通達し、数種の趣味を持つような人間にあっては、殆ど同時に諸種の交渉を行っていることなどは、決して珍しいことではないのである。

以下は上記 32 例の教育実践に反映されている「八つの精神的交渉」を表にしたものである。

番号	出所	題目	知覚的 交渉	利用的 交渉	科学的 交渉	審美的 交渉	道徳的 交渉	同情的 交渉	公共的 交渉	宗教的 交渉
1	世界が求める創 価の人間教育 (2020 年出版)	信じているよ。大丈夫！大丈夫！	○	○		○	○	○	○	○
2		目の前の一人に精いっぱい愛情をかける	○	○		○	○	○	○	○
3		信じぬき関わり続ける教師目指して	○	○			○	○	○	○
4		世界授業——“いいね！”っていいね	○	○	○		○	○	○	○
5		ゆうちゃんの色きれいだね！	○	○		○	○	○	○	○
6		アートがつなぐ、人と人との絆	○	○	○	○	○	○	○	○

¹⁴ 池田大作『青春対話 2』聖教新聞社 2011 年 5 月 pp57-58

¹⁵ 池田大作『青春対話 2』前掲 pp68-69

¹⁶ 池田大作先生指導選集編集委員会『幸福への指針—池田大作先生の指導選集[上]』聖教新聞社 2020 年 11 月 pp205-206

¹⁷ 池田大作『「人間主義」の限りなき地平』第三文明社 2008 年 3 月 pp33-35

7		環境で人は決まらない。人生の主人公は自分だ！	○	○	○		○	○	○	
8		一人ひとりが輝くクラスに	○	○	○		○	○	○	○
9		馬とともに、生徒とともに	○	○			○	○	○	
10		グローバル人材育成への挑戦！	○	○	○		○	○	○	
11		あきらめないこと、信じぬくこと	○	○	○		○	○	○	○
12		「積み木」が共生社会への希望の架け橋に	○	○			○	○	○	○
13		信じることから始めよう！	○	○			○	○	○	○
14		子どもたちを笑顔にする“宇宙一”おいしい給食	○	○	○		○	○	○	
15		どんな子も成長できる！一けん玉の魅力 を世界に	○	○			○	○	○	
16		教育界の名医を目指して	○	○	○		○	○	○	
17	第41回「全国 人間教育実践報 告大会」 (2019. 10)	行動の奥にある心を知る	○	○	○		○	○	○	
18		人とのつながりこそ“力”	○	○			○	○	○	
19		学ぶ楽しさを共に見つけ	○	○	○		○	○	○	○
20	第42回「全国 人間教育実践報 告大会」 (2021. 11)	山間地で築いた原点	○	○		○	○	○	○	
21		共に「宇宙」を見つめて	○	○			○	○	○	
22		音楽で創造性を育む	○	○	○	○	○	○	○	
23	第43回「全国 人間教育実践報 告大会」 (2022. 10)	アフリカの子らに学ぶ	○	○		○	○	○	○	
24		差別の苦しみを「自分事」に	○	○	○		○	○	○	
25		言葉の奥の心に寄り添う	○	○	○	○	○	○	○	○
26		地域の教育力を引き出す	○	○	○		○	○	○	
27	第44回「全国 人間教育実践報 告大会」 (2024. 6)	学びが生き抜く希望と	○	○	○		○	○	○	○
28		自身の障がいを長所に	○	○	○		○	○	○	
29		生きる喜びつかむまで	○	○	○		○	○	○	○
30	実践記録（聖教 新聞 2024. 3. 30）	信じ抜くことは自身の心との戦い	○	○			○	○	○	○
31		地道な対話で気持ちを受け止める	○	○			○	○	○	○
32		信頼・達成感が生徒の自主性育む	○	○			○	○	○	○

上記の表からみると、①知覚的交渉、②利用的交渉、⑤道徳的交渉、⑥同情的交渉、⑦公共的交渉の五つの交渉は全ての実践報告に存在しており、③科学的交渉、④審美的交渉、⑧宗教的交渉の三つの交渉は一部の事例に反映していることが分かる。

実践報告の事例に同時に各交渉の反映が見られる。教員の主な仕事は生徒を教えることで、①知覚的交渉は必ずある。教員は生徒の抱えている問題、悪い言動と価値観などの「害」を工夫して好転させ、それを「利」と転換させることにより、当該生徒の価値を創造する可能性を最大限に促した。教員はいかにして目の前の問題を解決するかに当たって、上司、同僚からアドバイスをもらい、専門書籍などを参考することや、また池田の教育思想の利用が顕著で、その啓発の下で教育現場からアイデアを得たり、自身の経験を活かしたりして様々な工夫がみられる。この過程に教育場面での②利用的交渉が見られる。

教員が生徒に教えた知識においても、生徒の引っかかっていた問題の解決策においても、その中には③科学的交

渉が反映される。④審美的交渉は画、詩、音楽などにより表現され、実践報告にもこの三つの形での教育場面が全て現れた。⑤道徳的交渉はすなわち善行のことで、他人の善行を見て自分も感動して同じような行動をしたいという現象で、実践報告の教員は皆生徒に対して随時に善行を行い、とくに問題のある生徒には長期間に渡って続き、生徒たちは教員の善行に感動し、自分を少しずつ変えようと変化したため、この過程で生徒との心の交流や生徒の変化が顕著にみられ、道徳的交渉は常に見られる。

⑥同情的交渉は問題を抱えている生徒への対応の過程に必ず反映されている。⑦公共的交渉は個人の同情が拡大して、社会全体に向けられることで、教員たちは生徒の一人一人に対応するときは生徒を一個人として見るだけでなく、社会の一構成員としてまた社会の未来として見ている。また、創価の人間教育を実践する数多くの教員たちが発動する生徒への同情は、社会全体に向けられることになる一方、同情や同苦を注いだ生徒からの恩恵を感じ取った例が多くみられ、この点からも公共的交渉が反映されている。⑧宗教的交渉は他人への祈りと信じぬく心で、実践報告の教員はみな生徒の無限の可能性を信じぬいて、生徒と関わっていると推察できるが、その一部の事例はこの言葉が明確に表現されていなかったため、上記の表では○が一部だけ付けてある。

4. 人間教育実践例にみる池田思想の役割

教育実践例で教員たちが生徒の対応に困っているとき、池田思想から啓発を受けている内容がしばしば見られる。そのため、本章は其中でも特に池田思想の「大我論」について紹介し、教員たちは教育実践を通し、小我を克服して大我に統合・融合させていることを論じる。

池田は大我論の中で慈悲の実践を強調している。「欲望の消滅それ自体を目的としないで、民衆の救済、社会の変革をめざして慈悲の実践を貫いていくとき、自己の欲望はおのずから昇華され、コントロールされると説いた、大乘仏教のほうが正しいと思います。」¹⁸ 「大乘仏教—そのなかでも法華経の哲学—では、無我論を唱えたり、欲望の消滅を目指すのではなく、宇宙やほかの一切の生命と自我との調和・融合を説き、そこに、人生における理想的な幸福があると説いたのです。このための実践が慈悲による“利他”にあるとして、欲望はこの高い理念の実践によって、自然に超克されるものとしたわけです。つまり、“大我”（宇宙的・普遍的自我）に目覚めることによって、欲望と結びついた“小我”（個人的自我）を克服することを教えたのです。」

19

上記の内容は“小我”と“大我”に言及し、“小我”は常に欲望と結びついていると述べ、これは世の中のほとんどの人間の生活状態でもあると思う。また、通常は欲望を抑える即ち欲望を消滅するというふうに言われるが、大乘仏教では「欲望の消滅それ自体を目的としないで、民衆の救済、社会の変革をめざして慈悲の実践を貫いていくとき、自己の欲望はおのずから昇華され、コントロールされる」²⁰という理念がある。言い換えると、欲望は消滅することができなくて、それを上手に利用すると、自然に昇華されることができるということである。その利用の仕方は「民衆の救済、社会の変革をめざして慈悲の実践を貫いていく」である。

また、理想的な幸福についても言及し、それは「宇宙やほかの一切の生命と自我との調和・融合を説く」ことで、そのためには「慈悲による“利他”」の実践が必要で、その結果として「欲望はこの高い理念の実践によって、自然に超克される」ようになり、この段階に到達すると、「“大我”（宇宙的・普遍的自我）に目覚める」ようになり、同時に「欲望と結びついた“小我”（個人的自我）」も克服しているのである。

上記の分析から、“小我”の欲望を昇華させるには極めて重要なステップがあり、それは慈悲による利他の実践である。教員たちの実践報告はまさにこの慈悲による利他の実践で、この実践の過程はどんなに辛くても、長くても、辛抱強く最後まで頑張っていけば、理想な幸福が獲得できると強く信じているので、“小我”として乗り越えられるのに非常に難しい段階（生徒の状況が好転する前までのトラブルや摩擦がしばしばある間）でも、個人的な感情を抑えて理性的に対応し続けていけるようになったと考える。

¹⁸ アーノルド・トインビー；池田 大作『二十一世紀への対話（下）』聖教新聞社 2003年2月 p171

¹⁹ アーノルド・トインビー；池田 大作『二十一世紀への対話（下）』前掲 p174

²⁰ アーノルド・トインビー；池田 大作『二十一世紀への対話（下）』前掲 p171

また、一部の実践報告の事例で教員たちは時には生徒より先に保護者をサポートし、親までも変えられたことがあったり、また保護者よりも生徒を愛したりして、通常から見ると自分の仕事の量が増えるとは見えなくなって、嫌になるところである。しかし、実践報告の教員たちはそれと反対に、この保護者をサポートすることも「慈悲による“利他”」の実践と見なし、それで仕事範囲外のことも積極的に取り組んでいる。そのおかげで、保護者だけでなく、生徒も一緒に変えられた時点で獲得した幸福感も倍になり、それこそ理想的な幸福であるという体験があるので、そういう実践をまた続けられるエネルギーも注がれたに違いないと考える。

ここでは、「大乘仏教」の理論が羅針盤のような存在で、それがなければ、教員たちは生徒が好転する前までの難しい段階や、保護者が協力してくれない段階で、“小我”すなわち個人の感覚で飽きてしまったり、途中で諦めてしまったりするのではないかと考える。

大乘仏教では大我（宇宙的・普遍的自我）への統合・融合は、「三身」という形で出現すると説いている。即ち宇宙大の慈悲のエネルギー（「応身」）、宇宙大の智慧（「報身」）、宇宙と一体となった不動の境涯、強い意志力或いは勇氣（「法身」）となって現れる²¹。従って、教員たちは「慈悲による“利他”」の実践を通し、慈悲・智慧・勇氣を引き出していることになる。

前述の「八つの精神的交渉」と関連付けて言うと、同情的交渉における同情や同苦に基づいた行動、即ち慈悲の実践は、小我（個人的自我）を克服して大我（普遍的自我）に融合する過程で、その過程で勇氣・智慧・慈悲を引き出している。そしてこの勇氣・智慧・慈悲の果たす役割は大きい。審美的交渉において対象から美を感じとる上で智慧は欠かせないし、また道徳的交渉においては善行を貫く為には勇氣が必要である。利用的交渉においては様々な工夫を生み出す上で智慧と勇氣が、また公共的交渉においては同情や同苦を拡大する上で慈悲が、また恩恵を感じとる上では智慧が必要である。

5. むすび

32例の実践報告において『人生地理学』の「八つの精神的交渉」の反映を対照させて考察してみると、「八つの精神的交渉」の価値創造現象が到るところに反映していることが判明した。その中でも特に「知覚的交渉」「利用的交渉」「道徳的交渉」「同情的交渉」「公共的交渉」においては顕著である。これは「利」と「善」の価値創造現象とも捉えることができると考える。

創価の人間教育の特質として、①教員が慈悲の実践（同情的交渉）を通して小我を克服し大我に融合する過程で勇氣・智慧・慈悲を引き出すこと、②勇氣・智慧・慈悲を活用して、生徒との心の交流（道徳的交渉）を通し生徒の為に様々な価値創造を展開すること、③創価教育学を継承・発展させている池田の善行への共感（道徳的交渉）及び思想の有用性への賛同（利用的交渉）の表れとして、池田の教育思想からの啓発が顕著であること、があげられる。

参考文献

牧口常三郎『創価教育学体系Ⅱ』聖教新聞社 1996年6月

熊谷一乗『牧口常三郎』第三文明社 1997年1月

牧口常三郎『牧口常三郎全集 第一巻 人生地理学（上）』第三文明社 1998年4月

川田洋一『創価学会のめざすもの』第三文明社 2000年10月

アーノルド・トインビー；池田 大作『二十一世紀への対話（下）』聖教新聞社 2003年2月

古川敦『幸福に生きるために——牧口常三郎の目指したもの』第三文明社 2006年8月

池田大作『「人間主義」の限りなき地平』第三文明社 2008年3月

池田大作『青春対話2』聖教新聞社 2011年5月

池田大作先生指導選集編集委員会『幸福への指針—池田大作先生の指導選集[上]』聖教新聞社 2020年11月

²¹ 川田洋一『創価学会のめざすもの』第三文明社 2000年10月 pp198-200

